

Jazz Interview vol.74

★ NY を拠点に活躍する親日家 & 実力派のサクソ奏者！ ★ ダリル・ヨークリー [Darryl Yokley]



NY を拠点に、サクソ奏者、コンポーザー、アレンジャー、エデュケーターとしてだけでなく、インディーズレーベル “Truth Revolution Recording Collective” のオペレーションズ・マネージャー兼コーディネーターとしても活躍するダリル・ヨークリー。

この6月の来日の際、ダリル本人から連絡をもらい東京で会うことができたが、ジャズ・ミュージシャン、サクソ奏者としての魅力だけでなく、その人柄も魅力的で正にナイスガイ。大好きだという日本のビールを飲みながら、音楽の話はもちろん、家族の話や大好きなサッカーの話で盛り上がった。このインタビューでも語っているニューアルバムのリリースと今後の来日公演も待ち遠しい。

[2023年8月取材・文：加瀬正之]

★ 今年6~7月に来日されていましたね。漸くコロナが明けた日本でのライブや日本での滞在生活はいかがでしたか？

ライブを行ったところ全てが素晴らしかったです。観客はアメリカよりも音楽を高く評価しているようで、日本で演奏するのをいつもとても楽しみにしています。日本ではデパートやレストラン等、どこに行ってもBGMで常にジャズが流れているので、日本人たちが音楽について非常に知識があることも不思議ではありません。今回も一緒に演奏したミュージシャンたちは、とても素晴らしかったです。東京では主に日本に住んでいるアメリカ人の友達たちと演奏してきましたが、アメリカでも今まで多くの素晴らしい日本のミュージシャンたちと演奏する機会がありました。世界中の国々のミュージシャンが過去のレコーディングをどのように解釈し、どのように音楽を学んでいるのかが常に興味深いです。日本は間違いなく高いレベルにあると思います。

5年振りに日本で演奏できてとても新鮮でした。コロナ禍の影響で来ることが叶いませんでしたが、今は自由に旅行ができるので、以前とほとんど同じように感じました。でも、新しいビルが建ったり、以前はオープンしていたのに今は閉店してしまっているお店など、これまで滞りした様々な都市で変化が起きているのにも気がきました。公演に足を運んでくれた観客の数からもウィルスへの恐怖はかなり薄れて来ていると感じました。日本に住んでいないので、コロナ禍での音楽業界を取り巻く環境がどのようなものだったのかはよくわかりませんが、日本がウィルスへの対処に関して最も慎重な国の一つであったことは知っていました。また、一連の公演で満員の観客を見て、人々が再び音楽を楽しむことを待ち望んでいたことがわかり、今回そこに参加して来たことはとても嬉しかったです。

★ 2018年にリリースされた現時点の最新アルバム『ピクチャーズ・オブ・アン・アフリカン・エキシビジョン』はサウンドも素晴らしく、素敵な作品でしたが、新作も心待ちにしています。新作について、企画やコンセプトなどは聞かせて下さい。

私と私のバンド “サウンド・リフォーメーション” と私は、ここ数年ラテン・ジャズのプロジェクトに取り組んで来ました。がいよいよスタジオに入る準備ができたと感じています。ガブリエル・ガルシア・マルケス著の小説「百年の孤独」からインスピレーション

を得た作品です。このプロジェクトには多くのリサーチを費やして来て（このプロジェクトはまだ続いています）、最終段階に到達するまでに時間がかかりましたが、ほぼ全ての音楽の準備が整って来ており、これが最終ヴァージョンになると確信しています。アルバムにはスペシャルゲストも予定しているので、ファンのみなさんは楽しみに待っていて下さい！

★ 夏以降のニューヨークでの活動について聞かせて下さい。

日本からニューヨークに戻った翌日にもライブがあり、それ以来ずっとライブ活動を続けています。まだウェブサイトにはアップされていないものもありますが、今年の後半にもいくつかライブが決まっているのと、レコーディングのためにバンドメンバーとスタジオに戻る予定もあります。忙しくなるとは思いますが、チャレンジを楽しみにしています！

★ アフリカ系アメリカ人のお父さんと、メキシコ世のお母さんのご両親のもとに生まれたのですね。音楽、ジャズ、サクソとの出会いについて教えてください。

ちょっと恥ずかしいのですが、私がサクソに惹かれたきっかけはケニー・Gとジョー・キャメル（タバコ「キャメル」が広告キャンペーンに起用したイラストのラクダが、サクソを手にした広告でも有名）だったんです（笑）。念のため言っておきますが、私はもうケニー・Gは聴かず、タバコも吸いません（笑）。音楽との出会いですが、ジャンルを問わず常に私の周りには音楽がありました。最終的には、ハイスクール時代に学科の先生の話を聞いてミュージシャンになろうと決心しました。今でも音楽を演奏することが大好きであることは変わりませんし、日々音楽について新しい多くのことを発見しています。大学でクラシックのサクソを演奏し始め、ジャズ・ミュージシャンとして各地で演奏したり、ツアーをしたりすることになるとは夢にも思っていなかったのですが、これまでの道のりにとっても満足しています。

★ 強い影響を受けたサクソ奏者を3人挙げて下さい。

私の現在のコンセプトを形作ってくれた偉大なサクソ奏者は数多くいるので、私にとっていつも答えることが最も難しい質問です。最初に挙げるとしたら、ウェイン・ショーターだと思います。



★あなたはレーベル“Truth Revolution Recording Collective”のオペレーションズ・マネージャー兼コーディネーターでもありますが、TRR Collectiveの紹介をお願いします。

TRR Collectiveは、ジャズとラテンジャズに焦点を当てて設立されたインディーズレーベルです。ザ・レコーディング・アカデミーによって、注目すべきジャズレーベルのトップ10の1つとして挙げられています。豊富な知識、経験、リソースを活用してアーティストがアルバムを一般にリリースできるように支援しています。私は2014年から彼らとアーティストとして活動を始め、2021年からはオペレーションズ・マネージャーを勤めています。

★あなたの奥さんは日本人で、可愛い娘さんもいらっしゃるんですね。日本のイメージについて聞かせて下さい。また、お気に入りの日本の場所や食べ物、音楽などがありますか？

はい。私にとって日本はとても身近な国です。私の日本に対するイメージは、とても現代的でありながら、同時に歴史的な国でもあることです。国がどのように発展しても、文化や習慣は伝統に深く根ざしており、国民の連帯感が感じられないアメリカ人にとって、これは非常に興味深いことです。将来は長期間、日本で過ごしたいと思っています。日本に永住すると言っているわけではありませんが、数年、あるいは毎年、数ヶ月間日本に住んでみたいと思っています。出来れば、蒸し暑い夏ではない方がいいですけどね（笑）。でも、私にとって少し危険なのは、ラーメンが大好きで他にもたくさん大好きな日本食があることです（笑）。ジャズの他に、日本の伝統音楽をライブで聴くことも大好きで、これまで民謡も2回聴きに行きました。また、今年は歌舞伎も観に行きました。

★あなたは今のサッカーファンですよね？好きなチームと好きな選手は誰ですか？

好きなチームはFCバルセロナ、選手はリオネル・ messi です！

★今年から来年にかけて、何か特別な計画はありますか？

私のバンドと次のアルバムをレコーディングして、来年にはアルバムを携えてツアーをする予定です。私のバンドを連れて、また日本で演奏できることを願っています！

★目標や夢は何ですか？

純粋に私のバンドや他のアーティストと一緒に音楽を作ることを楽しみ、人として、アーティストとして成長し続けたいと思っています。世界中を旅して、私の音楽活動を他のコミュニティと共有して、様々なコミュニティからも影響を受けたいと思っています。

★The Walker'sの読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

これからもThe Walker'sを応援して下さい！既に日本が恋しいです！できるだけ早く戻って来ますので、どうぞ待っていて下さい！

なぜなら、彼は演奏面でも作曲面でも私に大きな影響を与えたからです。チャーリー・パーカーも私に大きな影響を与えました。また、私が主にアルトサクスを演奏していた時は、ジョン・コルトレーンですね。ただ繰り返しますが、私に影響を与えたサクソ奏者は他にもたくさんいて、その中にはジャズ・サクソ奏者ではない人もいます。

★強い影響を受けたジャズのアルバムを3枚挙げて下さい。

これも難しい質問ですね！（笑）。強く挙げるなら、ジョン・コルトレーンの『至上の愛』、ウエイン・ショーターの『ザ・スースセイヤー（予言者）』、そして、ミゲル・ゼノンの『アイデンティティ・アー・チェンジブル』だと思います。私の見解では、『至上の愛』は音楽の知的な側面と精神的な側面の完璧なバランスという意味で、ベートーベンの交響曲第9番『歓喜の歌』と同じですが、これを成し遂げることは至難の業です。『ザ・スースセイヤー（予言者）』は、ホーンが追加されてアンサンブルがセクステットになったことで、ウエインはクインテットだけでは不可能だったかもしれない作曲上の自由をより探求できるようになったと思います。ミゲルのアルバム、彼の作品全般は私に本当に影響を与えてくれました。ミュージシャン／アーティストとしてだけでなく、1人の人間としてのアイデンティティを発展させる上で、自分の文化を探索することの重要性を認識させてくれました。

★あなたの楽器（サクソフォン）について教えてください。

全てセルマーの楽器：Mark VI（マーク6）のテナーとSuper Action 80's series II（スーパーアクション80シリーズII）で演奏していますが、前回最後に日本を訪れてからも、日本で良いサクソがたくさん作られていたので、他の楽器を演奏してみたいという誘惑にかられています！

★あなたはエドゥケーターでもありますね。何人の生徒がいるのですか？また、彼らにどのように教えているのですか？

現在、週に1日地元の日本人学校で1クラスを教えているのと個人レッスンを行っています。私の個人レッスンには8人の生徒がいますが、生徒に教えるながら一緒に学ぶことはとても楽しいです。私が教える時には、生徒が誰なのか、どこから来たのか、趣味は何なのかなどを、まず理解するよう努めています。楽器の演奏や音楽演奏全般の基本を学ばせることは大切だと信じていますが、各生徒の指導方法は個々の生徒に合わせて調整が必要だと考えています。速い曲とバラードでは同じように受けたいのと同じように、ある生徒には効果的でも別の生徒には効果的ではないことがあるので、私も1つの方法だけで教えることはできないのです。

★サクソを吹く上で最も大切なことは何ですか？

楽器の演奏方法であれば、息を吹き込んで良い音を出すための息の使い方を学ぶことが重要だと思います。楽器の演奏の基本の先の話しているのであれば、最も重要なことは、人と自分自身を正直に表現するアイデンティティを育むことだと思います。それは音、アイデアや言葉、そして、それ全てをどのように聴く人に届けられるかにも関係しています。

【ダリル・ヨークリー オフィシャルウェブサイト】

<https://www.darrylyokley.com>



『ピクチャーズ・アット・アン・アフリカン・エキシビション』
ダリル・ヨークリー

Truth Revolution Recording
Collective : TRR-044
2018年4月20日発売

ダリル・ヨークリーの最新 & 2nd アルバム